



JAPIC会長  
進藤 孝生  
Kosei SHINDO

## JAPICについて

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会 (Japan Project-Industry Council: JAPIC) は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際協力の促進と産官学の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向け、産業・経済・環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目指して活動して参りました。現在43業種222社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。

## 講座開設趣旨

神戸大学とJAPICとの連携協定に基づき、本リレー講座を開講します。

世界は、新興国の急成長や情報通信技術の目覚ましい進歩、金融市場のボラティリティ化などにより、大交流・大競争時代にシフトしています(グローバル化)。

この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの講義で説く『社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)』を習得することが必要不可欠と考えます。

本リレー講義では、グローバル人材に不可欠な教養とは何かを探求し、全学部生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力の向上をサポートします。

## 学生に期待すること

本リレー講義全体のキーワードである、「グローバル化とは何か?」、「グローバル化の中で日本は?」について理解し、大交流・大競争時代の実事認識についての強い関心と好奇心を持って、グローバル時代にチャレンジするための備えに取り掛かることを期待します。

主催/神戸大学 産官学連携本部  
一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)

サポート/神戸大学東京六甲クラブ

問い合わせ先/神戸大学研究推進部連携推進課 連携推進グループ

電話番号: 078-803-5427

Email: ksui-sangaku@office.kobe-u.ac.jp

JAPIC  
連携

産業界・官界トップリーダーによる

# 連続リレー講座 2021

グローバル化とは何か? グローバル化の中で日本は?  
学生は何を学び、何を身につけるべきか?

神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)との連携協定に基づき、産業界・官界のトップリーダーがオムニバス形式で講義します。  
今、企業でどんな人材が求められているのか? 学生に何を身に付けてほしいのか?  
土曜日を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。

科目名 **社会基礎学** (グローバル人材に不可欠な教養)

開講時期 令和3年度前期 **土曜日 10:40 ▶ 16:40** 全6回  
(初日と最終日は13:20~16:40)

場所 鶴甲第1キャンパス  
K棟 K202号室 または B棟 B110号室

科目区分 総合教養科目  
(2016年度以降入学生)  
総合教養科目  
(2015年度以降入学生 「教養原論」の単位に算入)  
総合科目I  
(2014年度以前入学生 「教養原論」の単位としては算入不可)

世界に挑め!!



# 社会基礎学【2021年度】

※2単位取得（科目区分、卒業案件の取り扱いは、学年・学部によって異なります。）

## 第1回 6/12(土)

13:20-16:40

### 〔導入講義〕 連続リレー講義の意味・意義と狙い

PD-コーディネーター
<b>JAPIC 常務理事</b> <b>三浦 潔司</b> プロフィール:新日鐵(現 日本製鉄(株))に入社し、主に鋼材の営業を担当。分野は、建築・土木、造船、建設機械、産業機械、地域は、東京、大阪、名古屋とそれぞれ幅広く担当。2012年からの5年間は、新日鐵子会社にて、経営を担う。趣味は、ゴルフ、読書、散歩、芸術鑑賞。
PD-パネリスト

PD-パネリスト
<b>野村アセットマネジメント(株) CEO 兼 代表取締役社長</b> <b>中川 順子</b> プロフィール:1988年野村證券(株)入社。支店、投資銀行部門、財務部門を経験し、2004年退社。2008年野村ヘルスケア・サポート&アドバイザリー(株)入社、同年社長就任。2010年野村ホールディングス(株)へ異動。2011年執行役CFO、2013年執行役員、2017年野村アセットマネジメント(株)専務を経て、2019年CEO兼代表取締役社長就任、現在に至る。 <b>★</b> 本学出身者

## 第2回 6/19(土)

10:40-12:10

### ゼロカーボンの社会の実現に向けて

日本も2050年カーボンネットゼロの社会に向けて動き始めた。1990年代の京都議定書の発効からパリ協定を経て、今日に至るCOPの歴史と、リーマンショック、東日本大震災、そしてコロナの感染拡大等を踏まえて、我が国の地球温暖化・エネルギー問題を振り返るとともに、今後地球温暖化・エネルギー問題と課題（環境と経済の両立）をどうとらえていくのか、国の内外の事例を踏まえて皆さんと議論、考えてみたい。

JAPIC 専務理事・事務局長	丸川 裕之
プロフィール:1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鐵(現 日本製鉄(株))入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。	

## 第3回 6/26(土)

10:40-12:10

### 現代の金融システム

金融は企業や個人が経済活動を行う上で不可欠な役割を果たしている。その一方で経済に悪影響を与えることもあり、悪者扱いされることも多い。講義では金融が個人の生活や企業活動にどう役立っているかについて具体的にみたま上で、どう活用していくことが望ましいかを考えてみたい。

ゴールドマン・サックス証券(株)取締役マネージング・ディレクター	吉村 隆
プロフィール:1985年日本銀行入行。IMF出身、ニューヨーク事務所次長、政策委員会企画室を経て、2007年ゴールドマン・サックス証券(株)コンプライアンス部門統括 マネージング・ディレクター、2019年現職に就任。趣味:旅行、オペラ、ゴルフ。座右の銘:天網恢恢疎にして漏らさず	

## 第4回 7/3(土)

10:40-12:10

### アントレプレナーシップについて考える

PD-パネリスト
<b>双日(株) 顧問・神戸大学特別顧問</b> <b>田邊 弘幸</b> プロフィール:1968年日商岩井(株)入社。日商岩井・双日を通じ、専務執行役員(金属エネルギー部門長)、米州総支配人、代表取締役副社長などを歴任。2011年双日(株)顧問就任。2度に亘るニューヨーク駐在は合計9年間。1998年ハーバード・ビジネススクールAMPコース終了。三重県伊勢市出身。趣味は音楽鑑賞：室内楽・声楽を楽しむ。神戸大学特別顧問。日本モータリト協会副理事長。神戸大学経営学部卒業。 <b>★</b> 本学出身者
PD-パネリスト

PD-パネリスト
<b>神戸大学 理事・副学長</b> <b>河端 俊典</b> プロフィール:1958年愛媛県新居浜市出身。愛媛県と愛知県で育つ。三重大学農学部卒業・同大学院農学研究科修士課程修了。博士(工学)(神戸大学)。19年間の民間企業勤務を経て、2000年神戸大学農学部助教授。2012年農学研究科教授。2017年農学研究科長。2021年4月から理事(研究・社会共創・イノベーション担当)・副学長。趣味:長距離ドライブ、登山。(神戸大学山岳部長)

## 第5回 7/10(土)

13:20-14:50

### 日本外交の現状と課題

国際社会は、中国の台頭によるパワーバランスの変化への対応が求められている。2021年には、日本は、コロナ禍からの回復に取り組むとともに、外交面ではバイデン新政権とも連携して、国際社会の課題に取り組む必要がある。激動する国際社会の平和と繁栄を確保するために、日本が果たすべき役割を考える。

外務省 総合外交政策局長	山田 重夫
プロフィール:1986年外務省入省、北米局日米地位協定室長、総合外交政策局総務課主任外交政策調整官、アジア大洋州局南東アジア第二課長、同局北東アジア課長、在中華人民共和国日本国大使館公使、在アメリカ合衆国日本国大使館公使、北米局参事官、内閣官房内閣審議官(国家安全保障局)などを歴任し、2019年9月より現職。東京都出身。趣味:ランニング。	

## 第6回 7/17(土)

13:20-14:50

### ポストコロナのニューノーマルに対応した都市のあり方について

PD-パネリスト
<b>（株）日建設計 取締役常務執行役員 都市部門統括</b> <b>奥森 清喜</b> プロフィール:1992年、日建設計に入社。以来、国内外の都市マスタープラン、都市開発プロジェクトを数多く経験。東京駅(グランルーフ)、渋谷駅、新宿駅、品川駅などに代表される駅まち一体型開発(TOD)に携わり、中国、ロシアなど多くの海外TODプロジェクトを担当。国土交通省都市局「デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会」でゲスト講演を実施。
PD-パネリスト

PD-パネリスト
<b>（株）ベイフォワード 代表取締役</b> <b>谷井 等</b> プロフィール:1996年神戸大学経営学部卒業。1996年日本電信電話(株)入社。1997年から会社経営に身を置き、1社を楽天(株)に、1社を上場の上、ヤフー(株)に売却。会社の設立から買収、売却、海外企業との業務提携、株式上場、TOBなど、ほぼ全てのコーポレートアクションを経験。2016年(株)ベイフォワードを設立。2017年よりゼミタイシし2年間海外を放浪。 <b>★</b> 本学出身者

## 第7回 7/24(土)

10:40-12:10

### モビリティ革命とMaaS(マース)

モビリティ革命の本命と言われる「MaaS: Mobility as a Service(マース)」」。様々な移動手段を一つに統合、スマホ一つでルート探索から予約、決済までが行え、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして商品化した、究極の交通サービスがMaaSです。本講義では、移動革命の最新動向やMaaSが私たちの都市やライフスタイルにどのようなインパクトを与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

（一財）計量計画研究所 理事 兼 研究本部企画戦略部長	牧村 和彦
プロフィール:1990年（一財）計量計画研究所（IBS）入所。東京大学 博士(工学)。愛知県出身。都市・交通のシンクタンクに従事。将来のモビリティビジョンを描くモビリティ・デザイナー。代表的な著書に、「MaaSが都市を変える～移動×都市DXの最前線、学芸出版」、「MaaS～モビリティ革命の先にある全産業のゲームチェンジ(日経BP)」、「Beyond MaaS～日本から始まる新モビリティ革命～移動と都市の未来～(日経BP、共著)」等多数。	

## 第8回 7/24(土)

13:20-14:50

### ポストコロナのニューノーマルに対応した都市のあり方について

コロナ禍の中、都市のあり方が問われている。人が集まり、コミュニケーションすることで新たな価値が創造されることに疑問符がなげかけられているが、都市の中で変わるもの、変わらないものを見極める力をもつことで、「新しい都市のあり方」を見出すことができると考えられる。コロナ禍において注目されているパブリックスペースに着目し、ポストコロナのニューノーマルに対応した都市のあり方を展望する。

（株）日建設計 取締役常務執行役員 都市部門統括	奥森 清喜
プロフィール:1992年、日建設計に入社。以来、国内外の都市マスタープラン、都市開発プロジェクトを数多く経験。東京駅(グランルーフ)、渋谷駅、新宿駅、品川駅などに代表される駅まち一体型開発(TOD)に携わり、中国、ロシアなど多くの海外TODプロジェクトを担当。国土交通省都市局「デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会」でゲスト講演を実施。	

## 第9回 7/31(土)

10:40-12:10

### アントレプレナーシップについて考える

近年はベンチャー企業への就職なども増加し、ベンチャーというキャリアも一般化している。日本経済発展の観点からも、社会からのベンチャー企業への期待が高まっている。この講義ではベンチャー企業を創業した当事者が、その創業、成長のストーリーを中心に、アントレプレナーシップ(起業家精神)について講義する。アントレプレナーシップは起業することだけにあらず、今後社会で活躍するために必須の精神である。

（株）ベイフォワード 代表取締役	谷井 等
プロフィール:1996年神戸大学経営学部卒業。1996年日本電信電話(株)入社。1997年から会社経営に身を置き、1社を楽天(株)に、1社を上場の上、ヤフー(株)に売却。会社の設立から買収、売却、海外企業との業務提携、株式上場、TOBなど、ほぼ全てのコーポレートアクションを経験。2016年(株)ベイフォワードを設立。2017年よりゼミタイシし2年間海外を放浪。 <b>★</b> 本学出身者	

## 第10回 7/31(土)

10:40-12:10

### モビリティ革命とMaaS(マース)

モビリティ革命の本命と言われる「MaaS: Mobility as a Service(マース)」」。様々な移動手段を一つに統合、スマホ一つでルート探索から予約、決済までが行え、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして商品化した、究極の交通サービスがMaaSです。本講義では、移動革命の最新動向やMaaSが私たちの都市やライフスタイルにどのようなインパクトを与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

（一財）計量計画研究所 理事 兼 研究本部企画戦略部長	牧村 和彦
プロフィール:1990年（一財）計量計画研究所（IBS）入所。東京大学 博士(工学)。愛知県出身。都市・交通のシンクタンクに従事。将来のモビリティビジョンを描くモビリティ・デザイナー。代表的な著書に、「MaaSが都市を変える～移動×都市DXの最前線、学芸出版」、「MaaS～モビリティ革命の先にある全産業のゲームチェンジ(日経BP)」、「Beyond MaaS～日本から始まる新モビリティ革命～移動と都市の未来～(日経BP、共著)」等多数。	

## 第11回 8/7(土)

13:20-14:50

### 総括

JAPIC 専務理事・事務局長	丸川 裕之
プロフィール:1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鐵(現 日本製鉄(株))入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。	

15:10-16:40

### 試験

## 第12回 8/7(土)

13:20-14:50

### ポスト・コロナの経済～ どういう視座で世界を見るのか

コロナ禍で、世界経済を取り巻く状況は大きく変化した。デジタル化の加速による産業構造の変化、グローバル化の揺り戻し、働き方や暮らし方の意識変化、そして財政悪化など、ポスト・コロナの時代の世界に、どう向き合い、どのような視座を持ってほしいのかを考えるヒントを探ってみたい。また報道現場に携わる立場から、メディアが果たすべき役割についても触れてみたい。

共同通信社 常務理事	岡部 央
プロフィール:北海道大学卒業後、1983年に共同通信社に入社し、記者として主に財政、金融、通商などを担当。1997年から3年間は、ワシントン特派員として日米貿易摩擦やアジア金融危機などを取材した。経済部長、人事労務部長、編集局次長、大阪支社長、経理局長などを経て、20年6月から現職。日本経済の現状を対外発信する雑誌の編集にも携わった。京都市出身。	

## 第13回 8/7(土)

13:20-14:50

### 企業経営とSDGs

経営者は、何を指して企業を経営すべきなのでしょう。現代の企業経営者や我々が学んだ資本主義は、人々に富と幸せをもたらす幸福の連鎖の構図ではなかったか。ところが、我々がニュースで目にするものは、貧困、飢餓、格差、自然災害等、その結果の国家の対立等。企業経営者が、短期的な経営指標にばかり気を取られず、SDGsの指標を軸にすれば、世界は変わらないか。皆さんと一緒に考えたいと思っています。

M&Company(株) 代表取締役社長	前川 直和
プロフィール:1987年日本生命保険相互会社入社。主計部、国際業務部を経てニューヨーク勤務。日本生命の国際戦略を立案、執行。その後外資系コンサルティング業界において、金融機関の戦略策定、執行を支援。2015年10月にベンチャー企業支援事業、政府政策課題執行支援事業等を行うM&Company(株)を設立し、現在に至る。大阪府出身。 <b>★</b> 本学出身者	

## 第14回 8/14(土)

13:20-14:50

### 総括

JAPIC 専務理事・事務局長	丸川 裕之
プロフィール:1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鐵(現 日本製鉄(株))入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。	

15:10-16:40

### 試験

## 第15回 8/14(土)

15:10-16:40

### 組織におけるダイバーシティと人財活用

社会・経済のグローバル化、多様化が進展するなか、企業や社会においても人財の多様性を尊重する「ダイバーシティ」の重要性はますます高まっている。当講義では組織におけるダイバーシティマネジメント、即ち構成員の多様な属性と個性の組織内への取込み、活用につき、その歴史的発展過程及び現状、課題について解説する。また、国内外の先進的事例を交えながらダイバーシティマネジメントの効用を明らかにし、将来像を展望する。

（株）日本政策投資銀行 ストラクチャードファイナンス部長	原田 文代
プロフィール:発達達上国等への技術支援、クロスボーダー投資等を担当した後、世界銀行グループ国際金融公社にて東アジアのインフラ整備に従事。DBJシンガポール副社長、国際統括部長兼女性起業サポートセンター長、海外、再生エネルギー担当部長を経て、2020年6月より現職。国内外のエネルギー分野、空港、航空機、道路等に対するプロジェクトファイナンス、アセットファイナンスを担当。	

## 第16回 8/14(土)

15:10-16:40

### 社会人としての学びと仕事の心構え、そして今後求められるグローバル人材像

まずは、損害保険業界で培った、社会人としての学びと仕事の心構えについて簡単に振り返って披露します。そして、保険事業を通じて、世界中のお客様に“あんしん”をお届けしている東京海上グループの海外展開を事例として用いながら、企業がグローバル展開することの戦略的意義や、ビジョン共有の重要性等について平易に解説します。また、今後のグローバル人材に求められる素養について具体的にお伝えしていきます。

東京海上日動ファシリティーズ(株) 代表取締役社長	倉谷 宏樹
プロフィール:1956年1月奈良県出身。1978年3月神戸大学工学部システム(現・情報知能)工学科卒業。同年4月東京海上火災保険(株)(当時)入社。主に営業畑を歩み、2006年7月営業開発部長、2009年6月～営業担当役員(常務、専務)等を経て、2016年4月同社代表取締役副社長。2017年4月から現職。趣味:音楽鑑賞、スポーツ観戦。モットー「明るく 元気良く 張り切って!!」 <b>★</b> 本学出身者	

## 第17回 8/21(土)

13:20-14:50

### 連続講義を受講した聴講者一人ひとりが、グローバル化をどのように捉え、どのような努力を今後していくべきか、また10年から20年後の将来(社会、自分)はどうなっているか、全員と具体的にディスカッションしていく。このことを通じて、自身のグローバル人材の在り方を再確認して貰いたい。

神戸大学 産官学連携本部 准教授(知的財産グループ長)	西原 圭志
プロフィール:工学博士取得後、九州大学 先端科学技術共同研究センター 助手、長崎大学 知的財産本部 准教授(知的財産部長)等を経て、2007年から現職。学生時代はハンドボール部。趣味は読書、映画鑑賞、山歩き、各地の美術館・博物館・動物園巡り。	

# 社会基礎学 推薦文

過去の受講生より

## 国際人間科学部 1回生

01

この講義を受けて良かったと思う点は、様々な分野で活躍されている講師の方のお話を聞く中で、自分の考え方の幅を広げることができた点です。それぞれの分野に関する新たな知識を得られるだけでなく、沢山の経験を積まれている講師の方のお話は自分の将来や社会について深く考えるきっかけとなりました。現代はグローバル化が進んでおり、世界とどのように関わるべきかを一人一人が考える必要があります。そのため、グローバルに生きるとはどういうことなのか、自分はどう生きるべきなのかについて、この講義を通して考えることができたと感じています。

## 医学部保健学科 1回生

02

世界で急速にグローバル化が進んでいます。そんな中、グローバル化の最先端を進んでいられる講師の方々からお話を聴けるのはとても貴重な機会であり、そこがこの講義の最大の魅力だと思います。なかなかほかの講義では聞くことの出来ない分野のお話が数多くあります。また、12回の講義でそれぞれ他分野の話を知ることができ、比較をして多角的なものの見方をすることが出来ました。今まさに世界や日本で起こっている問題の事をしっかり理解することが出来るのでこれからの医療従事者として、常識として知っておくべきことがこの講義には沢山詰まっています。

## 農学部 1回生

03

この授業では、普段関わることの無い色々な分野の第一人者のお話を聞くことができます。私たち学生目線ではなく、今社会で生きている先輩方の目線で、これから求められる人材の姿であったり、考え方であったりを知り、新たな視点を得ることができます。また、これまで生きてきた人生経験や、そこから得られた考えというのは、将来を考える上で大きな材料となりました。自分の専門とは大きく離れた分野のお話でしたが、今社会でおきていることや、必要とされている能力を、現場にいる方々から聞くのは、本当に良い経験になります。専門分野とは離れているからこそ、受けて欲しい講座だと思います。

## 文学部 1回生

04

「グローバル化が急速に進んでいると言われるが、実態はどうか知りたい。」、「講義ごとに講師の先生方の専門分野が異なるので、多様な角度から話を聞くことができそう。」という2つの理由から、私は社会基礎学の受講を決めました。実際の講義は想像以上に1コマ1コマの内容が濃く、毎時間何らかの新しい学びを得ることができました。金融や経済、軍縮、エネルギー革命など、通常の講義で私が触れる機会がほとんどないテーマもありましたが、これらのものから生まれている恩恵や社会問題は身近なところに隠れていて、自分と深い関係があるのだということを実感する良い経験になりました。また、普段関わることの少ない他学部の学生の意見は、私が今まで考えたこともなかったような切り口のものも多く、とても刺激的でした。自分の教養の幅を広げたい人、将来やりたいことを見つけるために様々な世界を知りたい人はもちろん、少しでも興味を持った人はぜひこの講義を受けることをおすすめします。

## 経済学部 1回生

05

社会基礎学は過酷です。コマ数は多いし、むずかしい話も多々あります。その上テストもかなりハードです。しかしながら、社会基礎学が定員オーバーになるほどの人気講義であるのには訳があります。まずやはり社会の第一線で活躍する方々のお話を聞くことができる減点のないチャンスである点です。社会が今のような課題を抱え、人々はどういうようなアプローチで解決しようとしているのか…現場の声を直に聞くことができます。また、多種多様な業界の方々が集まるのも魅力の一つです。文系・理系を問わず、多様な社会問題を学ぶことはみなさんの今後の進路にも影響を与える大きなきっかけとなるでしょう。もし単に教養を身に付けたいだけならこの講義は必ずしも必要ではありません。むしろ何か新しい観点から物事を考えてみたい、自分の考えをその道のプロにぶつけてみたい方にとってびったりの授業であると私は思います。新しい知識や考え方を手に入れるのに貪欲なみなさんに社会基礎学をおすすめします。

# 社会基礎学 推薦文

過去の受講生より

## 経営学部 1回生

06

私は社会基礎学の授業を通じて、自分自身の視野を広げるきっかけを掴むことができたと感じています。全ての講義のテーマがグローバル化に貫かれながらも、多様な視点からお話頂いたことで、一口にグローバル化と言っても様々な切り口があり、恩恵だけでなく課題もあるのだと学ぶことができました。このことにより私は、物事を多面的に見ることの大切さを実感し、自分が以前まで全く知らなかった分野について自分からより深く学ぶきっかけを得られました。また、質疑応答の際に周りの学生の鋭い指摘や深い洞察に刺激を受けたことや、文系理系関係無く学ぶことの重要性を再確認できたことで、他の授業へのモチベーションを上げることもできました。自分の中で興味のあることがはっきりしていない人は興味を持つきっかけを、特定の物事に既に関心を持っている人には新たな視点を、与えてくれる講座だと思います。

## 理学部 1回生

07

私は理系だから社会を知らないと言いつくたくてこの講義を受講することになりました。講義を受ける際に意識していたのは如何に先生方のお話が自分がこれから学ぶ専門分野と結びつくかということです。結果として驚くべきことに、全てが結びつきました。自身が学ぶことを様々な切り口から見つめることで新たな発見もありましたし、グローバル化と言われ、複雑化している社会とどのように関わっているのかを知ることができたのです。あなたがこれから勉強していくことがどのように社会に寄与するか知りたくはありませんか？この授業は社会の繋がりを考え、知ることが出来る良いきっかけとなります。理系だからこそ社会の繋がりを意識して欲しい。この講義を通して自身の将来と社会の関わりを考えて見て下さい。

## 医学部医学科 1回生

08

今日、医療の世界においてもグローバル化が進みます。進んでいく時代になっており、その中で日本は高度な医療技術を有するにも関わらず、その流れに乗り遅れていると言われています。私が医学部を志望した理由が、日本の医療の国際標準化に貢献したいからであったこともあり、この講義を受講することにしました。講義では、様々な方面で活躍されている講師の方々のお話を聞くことができ、大変良い機会でした。また、講義と一緒に受講した他学部の生徒の意見や学ぶ姿勢も新鮮で、良い影響を受けました。将来何になろうとせよ、多角的に物事を捉えられるようになることは重要なので、社会基礎学をおすすめします。

## 法学部 1回生

09

この講義の存在を知ったとき、様々な分野で活躍されている方々から話を聞くことで自分の視野を広げられるチャンスなのではないかと思い、履修を決めました。授業を受ける中で、今までの自分にはなかった考え方や価値観を持った方々からのレクチャーは私の心に強く残りました。少し難しいと感じる話もありましたが、普段の生活ではほとんど考えたことのないピッキングが取り上げられて新鮮に感じることがもありました。個人的なことではありますが、この講義の中で「世界は日本の大ファンです」という言葉に強く感銘を受けたので、自分の目で確かめるべく来年に留学することを考えています。自分の将来の幅を広げられるチャンスがこの講義にはたくさんあります。様々な分野の最前線で活躍されている素晴らしい方々から話を聞ける機会はめったにないことだと思うのでぜひ多くの方に受講していただきたいです。

## 工学部 1回生

10

私は、面白そうだと思う講義が1つあったのでこの授業を受けることにしました。しかし、実際に様々な講義を受けると今まで興味の無かった分野の話もとても面白くて新たな発見がありました。自分が所属する学部や学科で学ぶことは違う内容で、しかも非常に密度の濃いお話を聞くことができるという機会はなかなか無いと思います。土曜日に大学へ授業を受けに行くことを煩わしく感じてしまうこともありましたが、毎週受け終わった後は自分の世界が広がって少し成長できたような気持ちになりました。講師の方々は各界で活躍してお忙しいようでしたが、分りやすいパワーポイントを使って、難しい話題も初歩的なところから話してくださいました。また、受講している学生は学ぶことに対する意識をしかり持つ人が多く、質疑応答では時間内に取まらないほど多くの質問が出て、とても刺激的な空間でした。

## 海事科学部 1回生

11

分野を超えた授業を受けられるのも、海事なら一回生のうちだけだと思ってこの講座を受講しました。それぞれの分野で活躍していらっしゃる方々の話を聞くことはもちろん、授業の後半の時間を利用して、気になったことを直接質問することもでき、その時間でより理解を深めることに繋がったり、他学部生から良い刺激を受けたりすることもできました。講師の先生のお話は印象に残るものが多く、私はこの講義を通して、グローバル化が進む中で、自分たちがすべきことや進むべき方向を、つかむことができました。ほかの授業では体験できない面白さを、ぜひ味わってほしいです。

連続リレー講座2021【科目名：社会基礎学】パンフレットの記載内容に変更がありました。  
 下記の正誤表のとおり訂正します。

正誤表

訂正箇所	誤	正
第1回 6/12(土) PD-パネリスト	野村アセットマネジメント(株) CEO 兼 代表取締役社長 中川 順子  (プロフィール以下省略)	株式会社神戸新聞社 取締役会長 高土 薫  プロフィール：大阪市出身。1975年、神戸大法学部卒。同年、神戸新聞社に入社し、経済部、東播支社などを経て、本社社会部で遊軍、司法、兵庫県警、神戸市政、兵庫県政などを担当。社会部長、編集局長を歴任し、2010年から社長。2019年から会長。現在、神戸大学学長選考会議議長、経営協議会委員、凌霜会理事、共同通信社理事会副会長、ひょうご観光本部理事長などを務めている。★本学出身者
第5回 7/10(土) 15:10-16:40 講師 所属・役職  プロフィール 4行目	<u>東京海上日動ファシリティーズ(株)</u> <u>代表取締役社長</u> 倉谷 宏樹  2016年4月同社代表取締役副社長。 <u>2017年から現職。</u>	<u>元 東京海上日動火災保険(株)</u> <u>代表取締役副社長</u> 倉谷 宏樹  2016年4月同社代表取締役副社長。 <u>2021年3月グループ会社社長退任。</u>